



「北部病院だより」 — 第 201 号発刊に寄せて —

昭和大学横浜市北部病院 第 5 代目 病院長 坂下 暁子

「北部病院だより」は、当院が開院して 2 年目の 2002 年 8 月に創刊され、このたび第 201 号を迎えることができました。この節目にあたり、日頃より当院をご利用いただいている患者さんやご家族、地域の皆さま、そして病院を支えてくださる全ての職員の皆さまに、心より感謝申し上げます。

当院は、地域の皆様に安心して医療を受けていただけるよう、質の高い医療の提供を目指して歩んでまいりました。「北部病院だより」は、その思いを大切にしながら、医療に関する情報をわかりやすくお届けする架け橋としての役割を果たしてきました。これまで、病院の活動紹介や最新の医療情報、患者さんの声、地域とのつながりに関するお知らせなど、さまざまな情報をお届けし、医療をもっと身近に感じていただけるよう努めてきました。これからも、患者さんやご家族が安心して医療を受けられる環境づくりに貢献していきたいと考えています。

201 号という大きな節目を迎えるまでには、さまざまな出来事がありました。特に近年では、新型コロナウイルス感染症の流行が世界中に大きな影響を及ぼしました。当院でも、感染対策を徹底しながら診療を続け、地域の皆さまの健康を守るために全力を尽くしてきました。この経験を通じて、病院と地域のつながりの大切さや、正しい情報を発信することの重要性を改めて実感しました。「北部病院だより」も、感染症対策に関する正確な情報をお届けすることで、皆さまの不安を少しでも和らげることができたのではないかと思います。

医療は日々進歩しており、新しい治療法や技術が次々に生まれ、診断や治療の選択肢が広がっています。当院でも、最新の医療技術を積極的に取り入れながら、一人ひとりの患者さんに寄り添った最適な医療を提供できるよう努めています。これからも「北部病院だより」を通じて、皆さまに役立つ情報をお届けし、病院と地域をつなぐ大切な存在であり続けたいと考えています。

最後になりますが、これまで「北部病院だより」を支えてくださった皆さまに、改めて感謝申し上げます。そして、これからも 300 号、400 号と続いていけるよう努力を重ねてまいります。今後とも「北部病院だより」をご愛読いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



P1 【巻頭言】「北部病院だより」

— 第 201 号発刊に寄せて —

P2 【祝辞 都筑区医師会 深澤 立 会長】

P3 【退職される職員のご挨拶】【大学・病院名変更について】

P4 【ご意見・ご要望】【面会時間の変更について】【編集後記】



—地域みんなで、これからも歩みたい—

都筑区医師会長 深澤 立

このたび、昭和大学横浜市北部病院の「病院だより」が 201 号を迎えたことを、心よりお祝い申し上げます。長年にわたり、病院の取り組みや地域の皆さまに役立つ医療情報を発信してこられたことに、深く感謝し、敬意を表します。

昭和大学横浜市北部病院は、2001 年 4 月に開院し、大学病院として高度な医療を提供しながら、都筑区を中心に横浜北部地区の中核病院として、地域医療に貢献してきました。当初よりセンター方式を採用し、内科系と外科系が協力して診療を行うチーム医療を推進することで、縦割りになりがちな医療を横のつながりに変え、より迅速に最善の治療を提供できる体制を整えてきました。現在は 11 のセンターを保有しており、特に甲状腺センター、女性骨盤底センター、緩和ケアセンター、臨床遺伝・ゲノム医療センターなどを備えている点は、特筆すべき特徴です。このような幅が広く充実した診療体制は、地域の医療従事者としても誇らしく感じます。

また、至急対応して欲しい患者さんがいた場合、医師同士が直接連絡を取り合い、迅速に相談できる仕組み（Dr to Dr）を整備し、適切な医療をスムーズに受けられる体制を築いています。万が一、患者の受け入れが難しい場合でも、その理由を検証し、次につなげる仕組みを持っていることは、医師会にとっても、地域の住民にとっても大きな安心材料となっています。

コロナ禍においては、クラスターと闘いながら、多くの入院患者の治療に尽力されました。不安や緊張の中でも最前線で地域の命を守るために努力された医療従事者の皆さまに、改めて深く感謝申し上げます。災害時の医療体制の整備も重要な課題です。災害拠点病院としての役割を果たしながら、区の仮設救護所を立ち上げる医師会・区役所と緊密に連携し、迅速な医療支援が行えるような体制強化が求められており、今後もミーティングを重ねて、万全な体制をとれるようにしていきたいと思います。

今後も、これまで通り専門性の高い医療を提供しつつ、地域の診療所とより密接に連携し、住民が受診しやすい病院であり続けることを期待しています。昭和大学横浜市北部病院は、大学病院でありながらも、「地域の病院」です。そのためには、在宅医療にもより関心を持ち、患者さんの生活に寄り添う視点を持つことが重要です。医師をはじめとするスタッフの皆さまが、この点をより深く自覚し、丁寧で親切な医療を提供する病院を目指してくださることを期待しています。

病気の治療や健康管理は、患者さん一人だけで成り立つものではなく、ご本人とご家族、そして医療福祉介護スタッフと地域の支えがあってこそ実現できるものです。地域の医療・福祉・介護の資源と緊密に連携することで、時代の変化に対応し、よりよい医療環境を築いていくことが不可欠です。昭和大学横浜市北部病院が、今後も地域の皆さまに信頼される病院であり続けることを心から願っています。都筑区医師会としても、地域医療のさらなる充実に向けて、引き続き協力して参ります。これからも地域の皆様と一緒に頑張っていきましょう。



—退職される職員のご挨拶—

西2病棟 林田 香代 師長

私が北部病院に入職したのは2002年、開院2年目の秋でした。センター南駅に初めて降り立った時、まだ空地の目立つ丘の上にまるで要塞のようにそびえ立つ病院の姿に圧倒されたのを記憶しています。入職後は集中治療室、小児科、NICUで約14年間研鑽を重ねたあと、部署責任者として成人一般病棟、内視鏡検査室、総合サポートセンター、メンタルケアセンターなどさまざまな部署、部門を経験させていただきました。

微力ながら、北部病院の一員として与えられた職務に真摯に向き合い、目の前の患者さんにベストを尽くすことを最優先に仕事に取り組んできたつもりです。常に時間やタスクに追われ、自分の未熟さ・至らなさに自信を失うこともありましたが、素晴らしい上司や同僚、そして患者さんやご家族の皆様に支えられながら無事定年を迎えられることに感謝の気持ちでいっぱいです。

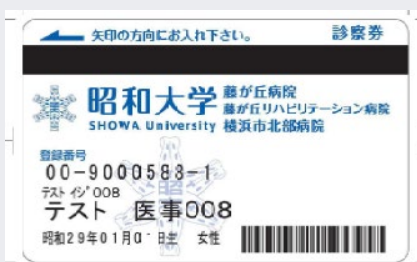
入職当時まるで要塞のように感じられたこの病院も、今ではすっかり街の風景に溶け込んでいますね。北部病院がこれからも皆様に愛され、地域にとってなくてはならない場所であり続けられるよう更なる発展をお祈りして退職のご挨拶とさせていただきます。

—大学・病院名変更について—

2025年4月1日より、昭和大学は医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部を擁する医系総合大学であることを校名からも発信し、社会に貢献できる優れた医療人を育成する大学として更なる発展を目指すため、昭和医科大学へ校名を変更することといたしました。これに伴い、新規発行分より、新たな校名の入った診察券に変更させていただきます。今まで使用しておりました、診察券は引き続きご使用いただけます。ご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。

- ・現在の病院名：昭和大学 横浜市北部病院
(SHOWA University Northern Yokohama Hospital)
- ・変更後の病院名：昭和医科大学 横浜市北部病院
(SHOWA Medical University Northern Yokohama Hospital)

(旧)診察券



(新)診察券



—ご意見・ご要望—

ご意見・ご要望	回答・改善等
子供が入院でお世話になります。面会を、父母2人で同時にできるとうれしいです。 色々な理由があるのだろと思いますが、検討していただけると良いなと思います。	ご意見ありがとうございます。 現在、報道にもあります通り、インフルエンザやマイコプラズマ肺炎など様々な感染症が流行していることから、十分な空間の確保のために、お一人ずつの面会に制限させていただいております。 面会の方法については感染症の流行状況に応じて検討しておりますが、当面は現行の面会方法となりますことをご容赦願います。 この度いただきましたご意見も参考に、今後も対応を検討してまいりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。 (回答部署：看護部)
中央棟1階の売店(ローソン)で、液体ミルクを取り扱ってほしいです。	日頃より、当店をご利用いただきありがとうございます。いただきましたご意見を受けまして、2024年12月より液体ミルクの取り扱いを開始いたしました。 なお、現時点で扱える商品は1種類(※)となりますことをご了承ください。この度は貴重なご意見ありがとうございました。【(※) 明治 ほほえみ らくらくミルク 200ml (税込み 232 円)】 (回答部署：ナチュラルローソン)

—面会時間の変更について—

	【現状】 面会時間	【変更後 2月1日より】面会時間
一般病棟	11:00~20:00 1日1回 <u>15分まで</u> 患者さん1名につき家族2人まで	11:00~20:00 1日1回 <u>30分まで</u> 患者さん1名につき家族2人まで
マタニティハウス	11:00~20:00 1日1回 <u>15分まで</u> 新生児の父親と兄弟姉妹(12歳以上。満たない場合は感染リスクがない場合のみ面会)	11:00~20:00 1日1回 <u>30分まで</u> 新生児の父親と兄弟姉妹(12歳以上。満たない場合は感染リスクがない場合のみ面会)

—編集後記—

日本の春の風物詩に、ひなまつりがありますね。毎年3月3日に女の子の健やかな成長と幸せを願って祝われます。ひなまつりの主役である「ひな人形」は、平安時代の「流し雛」の風習が元になっているため平安時代の貴族の装束をまとい、人形に自身の災いを移して川や海に流すことで、厄を払ったと言われています。

さらに、ひなまつりの料理にも意味があるのをご存じですか？はまぐりのお吸い物は貝殻がぴったり合うことから、良縁を表し、ちらし寿司は春の恵みを感謝する気持ちを込めたもの。3色の菱餅は、緑は「草木」を象徴し、冬を越えて芽吹く生命力を。白は「雪」を表し、純粋さと大地の浄化を。ピンクは「花」、特に桃の花を指し、邪気を払う力があるとされています。春まであと少し。季節の変わり目に、ひなまつりの由来に思いを馳せながら、家族や友人と心温まるひとときを過ごしてみたいいかがでしょうか。

(看護部 福岡次長)



北部病院だより 第201号(2025年3月1日発行)

発行責任者 坂下 暁子(昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 緒方 浩顕(広報委員会 委員長)

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。